

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1850180025		
法人名	医療法人 穂仁会		
事業所名	グループホームけんたく【A棟】		
所在地	福井市乾徳4丁目4番18号		
自己評価作成日	平成 25年 6月 15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年 7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ全員が認知症ケアのプロとしての自覚を有するよう研修会への参加等により質の向上に力を入れている。そして利用者様一人一人の思いを大切に「その人らしい普通の暮らし」が行えるよう家族ともカンファレンスを行っている。日勤帯は常に看護師を配置し、夜間帯においても医療機関との連携により必要な医療を確保できるようにしている。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植え込むことで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫する楽しみを持っていただけるようにしている。また新聞発行にも力を入れ、利用者一人一人の表情を出せるだけ多くご家族にも伝えられる様に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は福井市の松本通りに面した商店街に位置し、A～Cまでの平屋作り建物が3棟あり、それぞれがユニットとなっている。3棟のリビングから畑や花壇を見ることができ、四季の変化を身近に感じられる。理念「地域の中でゆっくりと一緒に楽しく暮らしながら人間の尊厳を大切に。」のもと、職員各々がケア目標を立て利用者の生活充実のため支援方法の向上に励んでいる。また、隣接するケアセンターと合同で開催する「ふれあい元気祭り」では、家族や地域住民へ参加を呼びかけるとともに、ボランティアの協力を依頼するなど地域とのつながりを重視している。さらに、地域との防火訓練や公園掃除、交通安全マスコット作り、ベルマーク集めを行うなど地域密着活動に積極的に力を入れている事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和するとともに個別性、地域活動などをケアプランに盛り込むことで職員間で共有するように努めている	理念をリビングルームやスタッフルームのわかりやすい位置に掲示している。理念「その人らしい普通の暮らし」をさらに具体化した方針10か条を作り、毎朝唱和し職員の意識向上を図るとともに日々のサービスに反映させている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館活動への参加、デイホーム、一斉清掃、神社での行事等、利用者が参加できる地域活動にはなるべく参加している。地域の方にホーム内の祭りや餅つきに参加していただいたり、採れた野菜や花をお裾分けする様な交流を行っている	自治会に加入し、町内会、公民館等の行事に利用者の作品を出品している。また、婦人会や幼稚園児等のボランティアやフラダンス、読み聞かせ、生け花教室等の受け入れ、地域防災訓練への参加など盛んに交流しており、利用者の楽しみとなっている。	年2回、地域に向けて新聞を発行していたが、この1年発行できていない。地域住民に向けて介護講座や事業所の取り組み状況を新聞などで周知し、より一層交流が図れることを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて「認知症を支える地域づくり」について話し合いをしたり、認知症サポーターの講習をアピールしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、そこで出た意見をスタッフと話し合い、取り入れていくことでサービス向上となるよう、努めている	2か月毎に利用者、家族、民生委員、区長、地域包括支援センター職員、介護相談員等の参加を得て開催しており、運営状況や行事、取組み、反省などを報告している。また、参加者から質問、意見、要望等を受け活発な意見交換を行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行っている。祭りなどのイベント時にはホームの実情を知ってもらいたい機会となっている	運営推進会議の際に地域包括支援センター職員や介護相談員に状況報告を行っている。また、市職員に研修等の情報提供や介護相談員を通じた家族の意見についてアドバイスを得るなど連携している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会による話し合いの場を設けている。施錠に関してはその都度外出できるように配慮している。センサーマットを使用する際は家族の理解、了解を得たうえで使用している。使用は最小限とし、行動の制限ではなく行動把握のために使用している	身体拘束の研修を年1回実施しており、言葉の拘束についても注意している。職員は施錠が拘束と十分に理解しているが、道路に面した繁華街で家族から安全第一の要望が強いため玄関を施錠している。なお、利用者が外出したい時は、その都度職員が同行し、利用者の行動制限を行わないよう支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を招いて勉強会を開催したり、ミーティングで話し合いを行い、意識レベルを高めるようにしている。利用者様や職員からも個別の聞き取りを行い、ストレスを抱えないように話し合うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会により知識習得に努めている。また必要性のある方にはご家族や社会福祉協議会に相談し、成年後見制度を活用している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるように努めている。疑問などに対しても十分な時間を取ることで理解していただけるよう努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる	介護相談員から得られた意見や苦情、家族へのアンケート結果をホーム全体の問題として取り上げ、ケアカンファレンスで検討し運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時のみならず、個別面談を通して各自の意見や提案を聞く機会を設けている。またそういう場で話しやすい雰囲気作りに努めている	半年ごとに管理者が職員の個人面談を行い、意見を聞いている。ケア会議では自由な雰囲気です率直な意見が出されており運営に反映させている。意見ボードや意見箱「花まるボックス」を設置し活用することで、職員の生の声をつかみやすい環境としている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に自己評価、上司評価を行うとともに随時個別面談により状況把握に努めている。評価は賞与に反映させ、向上心の維持に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、情報交換会や勉強会を通し、同業者とのネットワーク作りをしている。また介護福祉士会への入会や研修、実践研修への参加、施設実習の受け入れにより質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人の要望や不安な思いをできるだけ受け止め傾聴している。また入所後1週間は本人の行動パターン、発言や思いなどを細かく記入し、初回のプランに反映させている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく、グループ内の連携室などとも連絡を取り合いながら利用者様にとって最も良いサービス利用を総合的に判断している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がやりがいを持って行えることをケアプランに取り入れ、その人らしさを継続していけるように支援している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話合いの場やふれあいの場を設けている。カンファルスや「にこやか通信」で現状を知らせることで家族との繋がりが疎遠にならないように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に入所後も継続して通えるように支援したり、馴染みの方の面会時にはゆっくり過ごせる場を設けている	昔からの行きつけの美容室、公民館、デイホーム、コンビニへの買い物など馴染みの関係が継続できるように支援している。また、コミュニティバスを利用して馴染みの場所を訪問したり、友人と関わりを持てるよう支援するなど繋がりを大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、仲の良いとの関係作りや孤立しないようにテーブルの配置や座る場所を考えたり、スタッフが仲に入って良い関係作りに努めることで利用者同士がコミュニケーションを取れるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退所された方でも家族や本人の希望があれば優先的に再入所できるように配慮している。グループ内に退所となった場合、他事業所と情報交換を行うようにしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに合わせた暮らしづくりが行えるように努めている。外出や喫煙、晩酌などに対応できる取り組みは極力取り入れているようにしている	担当制としており、センター方式を使って利用者の思いを日々の行動や表情から汲み取っている。また、食事の好き嫌いや飲酒の要望など利用者の希望を受け止め、きめ細やかに対応しており、利用者から喜ばれている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、見直しを行っている。介護計画作成時には職員間でもカフェラリスを実施し、本人・家族との話し合いにより利用者本位の計画となるように心がけている	職員は1~3名の利用者を担当しており、日々の関わりの中で本人の意向や課題を把握し、家族や介護支援専門員と共に介護計画を作成している。ケアプランの見直しを年2回行っているが現状に変化のあった場合は柔軟に見直ししている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいたケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送りで情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内に連携室があり、入所時から利用者・家族とともにカフェラリスを行い、状況の把握に努めている。またグループ内での会議にて個々の利用者の状況の変化により利用者に対する今後の支援方法を検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。また定期受診だけでなく、急な往診にも対応できる医療体制や急な入院にも対応できる仕組みづくりを行っている	入所時にかかりつけ医について希望を確認しているが、ほとんどの利用者は月2回、系列病院の往診を受けている。なお、歯科、眼科については初回受審時のみ職員が同行し、以降は家族が同行している。また、内科受診の際は基本的に職員が同行している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は送りを通して看護師とも情報共有及び情報交換を行っている。また受診必要時には状況報告したうえでかかりつけ医の受診を仰ぎ、受診後の情報収集に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に対し、事業所での終末期に関する体制等を説明している。また終末期には医師の判断のもとで家族、スタッフと話し合いの場を作り、その人にとって1番良いと思われる方針を決め、介護計画に取り入れている	入所契約時に終末ケアについて説明している。マニュアルも作成しており今までに2人看取っている。看護師や医療との連携を図りながら、家族的な温かな終末ケアに取り組んでいる。また、状態が重度化した時の対応も、関連施設への入所等を行い、方針の共有化が図られている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部研修にてスタッフのスキルアップを行っている。また年1回全職員がAED講習を受講することで職員としてのスキルアップに努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに地域の方にも参加していただき、協力体制を構築している	年2回、地域住民と共に防火訓練を実施している。今年7月より毎月28日を災害訓練の日として、災害について話し合うなど危機管理意識を高め、非常事態に備えている。また、災害対応マニュアルを作成しており、備蓄等も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている	職員研修や接遇委員会が中心となった学習会で言葉かけや入浴、排泄時の対応方法など学んでおり、利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースにあわせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察するようにしている。また利用者に寄り添うケアを行い、本人の思いを把握できるように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望や状態に合わせて職員配置やその日の予定を臨機応変に対応できるようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気候に合わせて中庭で食事をしたり畑で採れた野菜を皆で料理して味わったりしている。時には外食による気分転換も図っている	利用者は畑で収穫した食材の皮むきや盛り付けなど、出来ることに毎日関わっており、作る楽しみ、食べる楽しみを職員と共有している。また、市販の汚れ防止用エプロンを使用せず、職員の手作りエプロン使用するなど家庭的な雰囲気となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、刻むようにしたり、本人の好むものを用意している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行えない方には見守り及び介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。また本人の自尊心を傷つけないように心がけている	利用者の排泄パターンを把握しており、自尊心に配慮しながら排泄に対する利用者の不安を解消し、排泄の自立をめざし支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行っている	入浴は週2回、家庭的な個浴としており、入浴を嫌がる場合は日を改め入浴に誘っている。月～土いつでも入浴可能で2人で入浴することも出来る。職員は利用者の羞恥心に配慮しながら、利用者の既存の能力を最大限活かしつつゆったり寛げるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息が取れるよう支援している。また本人が自分の枕や布団にこだわる方にはそれを使っていただいたり、不安な時にはスタッフと一緒に休んだりしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医による状態把握とともにかかりつけ薬局と連絡を取り、用法・注意事項についての説明を受け、連絡ノートに記載し、服薬チェック表を作成して職員が確実に服薬させるように支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など、楽しめるように支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外への散歩、散髪等は本人の希望時に対応している。また希望を聞きながらドライブに出かけたりして季節感や街並みに出来るだけ触れ合う機会を持ってもらうように支援している	毎月1回以上、利用者の要望に応え、買い物やドライブに出かけている。天気の良い日は毎日のように近所へ散歩に行き、その様子を写真にとり、広報誌で家族に知らせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書き等のやり取りが行えるように支援している。電話はいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見せることがあり、その際にはスタッフが介助することもある		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している	窓が大きく採光よく、日当たり良好となっている。リビングには畳のコーナーもあり、ソファー、テーブルがゆったりと配置され落ち着いた寛げる空間となっている。また、廊下壁面に中庭の草花や利用者の手づくりの作品が飾られ、温かみを感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファーを配置し、思い思いに過ごせるようにしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に家人に対して出来るだけ環境を変えたくないため、馴染みのもの(筆筒、椅子、置物、鏡台等)を持ってきていただくように話をしている	利用者の家から持ち込んだ馴染みの家具と家族の写真や位牌、手作りの作品も飾られ、プライバシーに配慮された居心地の良い空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアールや自室の把握が出来るだけ自分で出来るよう、掲示物や家具の配置を工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1850180025		
法人名	医療法人 穂仁会		
事業所名	グループホームけんたく【B棟】		
所在地	福井市乾徳4丁目4番18号		
自己評価作成日	平成 25年 6月 15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年 7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ全員が認知症ケアのプロとしての自覚を有するよう研修会への参加等により質の向上に力を入れている。そして利用者様一人一人の思いを大切に「その人らしい普通の暮らし」が行えるよう家族ともカンファレンスを行っている。日勤帯は常に看護師を配置し、夜間帯においても医療機関との連携により必要な医療を確保できるようにしている。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植え込むことで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫する楽しみを持っていただけるようにしている。また新聞発行にも力を入れ、利用者一人一人の表情を出せるだけ多くご家族にも伝えられる様に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以降、【A棟】と同じ。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和するとともに個別性、地域活動などをケアプランに盛り込むことで職員間で共有するように努めている	以降、[A棟]と同じ。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館活動への参加、デイホーム、一斉清掃、神社での行事等、利用者が参加できる地域活動にはなるべく参加している。地域の方にホーム内の祭りや餅つきに参加していただいたり、採れた野菜や花をお裾分けする様な交流を行っている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて「認知症を支える地域づくり」について話し合いをしたり、認知症サポーターの講習をアピールしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、そこで出た意見をスタッフと話し合い、取り入れていくことでサービス向上となるよう、努めている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行っている。祭りなどのイベント時にはホームの実情を知ってもらいたい機会となっている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会による話し合いの場を設けている。施錠に関してはその都度外出できるように配慮している。センサーマットを使用する際は家族の理解、了解を得たうえで使用している。使用は最小限とし、行動の制限ではなく行動把握のために使用している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を招いて勉強会を開催したり、ミーティングで話し合いを行い、意識レベルを高めるようにしている。利用者様や職員からも個別の聞き取りを行い、ストレスを抱えないように話し合うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会により知識習得に努めている。また必要性のある方にはご家族や社会福祉協議会に相談し、成年後見制度を活用している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるように努めている。疑問などに対しても十分な時間を取ることで理解していただけるよう努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時のみならず、個別面談を通して各自の意見や提案を聞く機会を設けている。またそういう場で話しやすい雰囲気作りに努めている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に自己評価、上司評価を行うとともに随時個別面談により状況把握に努めている。評価は賞与に反映させ、向上心の維持に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、情報交換会や勉強会を通し、同業者とのネットワーク作りをしている。また介護福祉士会への入会や研修、実践研修への参加、施設実習の受け入れにより質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人の要望や不安な思いをできるだけ受け止め傾聴している。また入所後1週間は本人の行動パターン、発言や思いなどを細かく記入し、初回のプランに反映させている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく、グループ内の連携室などとも連絡を取り合いながら利用者様にとって最も良いサービス利用を総合的に判断している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がやりがいを持って行えることをケアプランに取り入れ、その人らしさを継続していけるように支援している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話合いの場やふれあいの場を設けている。カンファルスや「にこやか通信」で現状を知らせることで家族との繋がりが疎遠にならないように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に入所後も継続して通えるように支援したり、馴染みの方の面会時にはゆっくり過ごせる場を設けている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、仲の良いとの関係作りや孤立しないようにテーブルの配置や座る場所を考えたり、スタッフが仲に入って良い関係作りに努めることで利用者同士がコミュニケーションを取れるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退所された方でも家族や本人の希望があれば優先的に再入所できるように配慮している。グループ内に退所となった場合、他事業所と情報交換を行うようにしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに合わせた暮らしづくりが行えるように努めている。外出や喫煙、晩酌などに対応できる取り組みは極力取り入れているようにしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、見直しを行っている。介護計画作成時には職員間でもカンファレンスを実施し、本人・家族との話し合いにより利用者本位の計画となるように心がけている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいたケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送りで情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内に連携室があり、入所時から利用者・家族とともにカンファレンスを行い、状況の把握に努めている。またグループ内での会議にて個々の利用者の状況の変化により利用者に対する今後の支援方法を検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。また定期受診だけでなく、急な往診にも対応できる医療体制や急な入院にも対応できる仕組みづくりを行っている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は送りを通して看護師とも情報共有及び情報交換を行っている。また受診必要時には状況報告したうえでかかりつけ医の受診を仰ぎ、受診後の情報収集に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に対し、事業所での終末期に関する体制等を説明している。また終末期には医師の判断のもとで家族、スタッフと話し合いの場を作り、その人にとって1番良いと思われる方針を決め、介護計画に取り入れている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部研修にてスタッフのスキルアップを行っている。また年1回全職員がAED講習を受講することで職員としてのスキルアップに努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに地域の方にも参加していただき、協力体制を構築している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースにあわせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察するようにしている。また利用者に寄り添うケアを行い、本人の思いを把握できるように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望や状態に合わせて職員配置やその日の予定を臨機応変に対応できるようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気候に合わせて中庭で食事をしたり畑で採れた野菜を皆で料理して味わったりしている。時には外食による気分転換も図っている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、刻むようにしたり、本人の好むものを用意している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行えない方には見守り及び介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。また本人の自尊心を傷つけないように心がけている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行っている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息が取れるよう支援している。また本人が自分の枕や布団にこだわる方にはそれを使っていたり、不安な時にはスタッフと一緒に休んだりしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医による状態把握とともにかかりつけ薬局と連絡を取り、用法・注意事項についての説明を受け、連絡ノートに記載し、服薬チェック表を作成して職員が確実に服薬させるように支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌など、楽しめるように支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外への散歩、散髪等は本人の希望時に対応している。また希望を聞きながらドライブに出かけたりして季節感や街並みに出来るだけ触れ合う機会を持ってもらうように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書き等のやり取りが行えるように支援している。電話はいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見せることがあり、その際にはスタッフが介助することもある		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファを配置し、思い思いに過ごせるようにしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に家人に対して出来るだけ環境を変えたくないため、馴染みのもの(筆筒、椅子、置物、鏡台等)を持ってきていただくように話をしている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアールや自室の把握が出来るだけ自分で出来るよう、掲示物や家具の配置を工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1850180025		
法人名	医療法人 穂仁会		
事業所名	グループホームけんたく【C棟】		
所在地	福井市乾徳4丁目4番18号		
自己評価作成日	平成25年 6月 15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成25年 7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフ全員が認知症ケアのプロとしての自覚を有するよう研修会への参加等により質の向上に力を入れている。そして利用者様一人一人の思いを大切に「その人らしい普通の暮らし」が行えるよう家族ともカンファレンスを行っている。日勤帯は常に看護師を配置し、夜間帯においても医療機関との連携により必要な医療を確保できるようにしている。ホーム内では畑や庭などに花や野菜を植え込むことで自然に触れる機会を多く設け、自分で植えた花や育てた野菜を収穫する楽しみを持っていただけるようにしている。また新聞発行にも力を入れ、利用者一人一人の表情を出せるだけ多くご家族にも伝えられる様に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以降、【A棟】と同じ。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和するとともに個別性、地域活動などをケアプランに盛り込むことで職員間で共有するように努めている	以降、[A棟]と同じ。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館活動への参加、デイホーム、一斉清掃、神社での行事等、利用者が参加できる地域活動にはなるべく参加している。地域の方にホーム内の祭りや餅つきに参加していただいたり、採れた野菜や花をお裾分けする様な交流を行っている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて「認知症を支える地域づくり」について話し合いをしたり、認知症サポーターの講習をアピールしている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活発な意見交換が行われており、そこで出た意見をスタッフと話し合い、取り入れていくことでサービス向上となるよう、努めている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と運営推進会議以外の場においても情報交換を行っている。祭りなどのイベント時にはホームの実情を知ってもらう良い機会となっている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会による話し合いの場を設けている。施錠に関してはその都度外出できるように配慮している。センサーマットを使用する際は家族の理解、了解を得たうえで使用している。使用は最小限とし、行動の制限ではなく行動把握のために使用している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部講師を招いて勉強会を開催したり、ミーティングで話し合いを行い、意識レベルを高めるようにしている。利用者様や職員からも個別の聞き取りを行い、ストレスを抱えないように話し合うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会により知識習得に努めている。また必要性のある方にはご家族や社会福祉協議会に相談し、成年後見制度を活用している		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるように努めている。疑問などに対しても十分な時間を取ることで理解していただけるよう努めている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時のみならず、個別面談を通して各自の意見や提案を聞く機会を設けている。またそういう場で話しやすい雰囲気作りに努めている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に自己評価、上司評価を行うとともに随時個別面談により状況把握に努めている。評価は賞与に反映させ、向上心の維持に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受講する機会を設けると同時に参加した外部研修については伝達して皆で知識を共有するように努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、情報交換会や勉強会を通し、同業者とのネットワーク作りをしている。また介護福祉士会への入会や研修、実践研修への参加、施設実習の受け入れにより質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ずご本人の要望や不安な思いをできるだけ受け止め傾聴している。また入所後1週間は本人の行動パターン、発言や思いなどを細かく記入し、初回のプランに反映させている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には必ず本人とは別に話す機会を設けて家族の求めていることや不安な点について現状を知るようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の現状を把握し、ホーム職員だけでなく、グループ内の連携室などとも連絡を取り合いながら利用者様にとって最も良いサービス利用を総合的に判断している		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がやりがいを持って行えることをケアプランに取り入れ、その人らしさを継続していけるように支援している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの機会を利用し、家族とともに支えていけるように話合いの場やふれあいの場を設けている。カンファレンスや「にこやか通信」で現状を知らせることで家族との繋がりが疎遠にならないように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に入所後も継続して通えるように支援したり、馴染みの方の面会時にはゆっくり過ごせる場を設けている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、仲の良いとの関係作りや孤立しないようにテーブルの配置や座る場所を考えたり、スタッフが仲に入って良い関係作りに努めることで利用者同士がコミュニケーションを取れるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず退所された方でも家族や本人の希望があれば優先的に再入所できるように配慮している。グループ内に退所となった場合、他事業所と情報交換を行うようにしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いに合わせた暮らしづくりが行えるように努めている。外出や喫煙、晩酌などに対応できる取り組みは極力取り入れているようにしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの話合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングを行い、見直しを行っている。介護計画作成時には職員間でもカンファレンスを実施し、本人・家族との話し合いにより利用者本位の計画となるように心がけている		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やプランに基づいたケアの内容を毎日、個別記録に記入し、申し送りで情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループ内に連携室があり、入所時から利用者・家族とともにカンファレンスを行い、状況の把握に努めている。またグループ内での会議にて個々の利用者の状況の変化により利用者に対する今後の支援方法を検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、消防、教育機関等の協力を得ながら、行事や生活に活かしている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。また定期受診だけでなく、急な往診にも対応できる医療体制や急な入院にも対応できる仕組みづくりを行っている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は送りを通して看護師とも情報共有及び情報交換を行っている。また受診必要時には状況報告したうえでかかりつけ医の受診を仰ぎ、受診後の情報収集に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に対し、事業所での終末期に関する体制等を説明している。また終末期には医師の判断のもとで家族、スタッフと話し合いの場を作り、その人にとって1番良いと思われる方針を決め、介護計画に取り入れている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部研修にてスタッフのスキルアップを行っている。また年1回全職員がAED講習を受講することで職員としてのスキルアップに努めている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに地域の方にも参加していただき、協力体制を構築している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースにあわせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察するようにしている。また利用者に寄り添うケアを行い、本人の思いを把握できるように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望や状態に合わせて職員配置やその日の予定を臨機応変に対応できるようにしている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気候に合わせて中庭で食事をしたり畑で採れた野菜を皆で料理して味わったりしている。時には外食による気分転換も図っている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によってバランスに配慮した食事メニューが作られている。体調不良や嚥下困難者にはお粥に変更したり、刻むようにしたり、本人の好むものを用意している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で充分に行えない方には見守り及び介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンに合わせておむつを選び、声かけや誘導をしている。また本人の自尊心を傷つけないように心がけている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴を実施し、本人の希望に合わせて入浴剤を使用したり、季節に合わせて菖蒲湯・ゆず湯などを行っている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息が取れるよう支援している。また本人が自分の枕や布団にこだわる方にはそれを使っていただいたり、不安な時にはスタッフと一緒に休んだりしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医による状態把握とともにかかりつけ薬局と連絡を取り、用法・注意事項についての説明を受け、連絡ノートに記載し、服薬チェック表を作成して職員が確実に服薬させるように支援している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事、晩酌などに支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外への散歩、散髪等は本人の希望時に対応している。また希望を聞きながらドライブに出かけたりして季節感や街並みに出来るだけ触れ合う機会を持ってもらうように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や葉書き等のやり取りが行えるように支援している。電話はいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見せることがあり、その際にはスタッフが介助することもある		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた花を飾ったり月ごとに壁飾りを変えて季節感を出している		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にベンチやソファを配置し、思い思いに過ごせるようにしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に家人に対して出来るだけ環境を変えたくないため、馴染みのもの(筆筒、椅子、置物、鏡台等)を持ってきていただくように話をしている		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアールや自室の把握が出来るだけ自分で出来るよう、掲示物や家具の配置を工夫している		